

校長室便り

(文責)

ドーハ
日本人学校校長
酢谷昌義

大使夫人の「笑顔」のお話

はのお話でした。日本人は特に、初めての人に対し笑顔を見せることが苦手だと言われ「笑顔を大切にしてください」と話されました。

子ども達は大使ご夫妻のことが大好きです。その大好きな方からいただいたお話は、きっと子ども達の心に深く残るものになったのではないかと思います。お忙しい中わざわざお越しいただき、最後まで子ども達を温かく励ましてくださった大使ご夫妻に、心から感謝申し上げます、ますますのご健康とご活躍をお祈りいたします。

大使ご夫妻とのお別れ

すでに皆さんご承知のことと思いますが、まもなく北爪大使ご夫妻が帰国されます。そのような大変にお忙しい中、先週の木曜日にわざわざ子ども達とのお別れに来てくださいました。ホールに全校児童生徒を集め、大使ご夫妻から子ども達へ最後のお話をしていただきました。

大使からの「子ども達へのお礼の言葉」がとても印象的でした。どういうことかと言うと、先日子ども達が大使ご夫妻に書いたお礼の手紙(作文)を、これまでの学校行事等の中で大使ご夫妻と一緒に写っている数枚の写真とともに、アルバムのようにして届けていました。大使はそれを大変喜んでくださり、「このアルバムは僕の勲章です。」とってくださいました。カタールの国からも勲章を受けておられますが、その勲章もドーハ日本人学校ができたことと、子ども達のお陰でもらうことができたものだとおっしゃっていました。大使が何度も子

ども達に「ありがとう」と言われるのを聞き、大変感動いたしました。

その後「頑張って立派な小学生・中学生になってください。カタールの人とも仲良く。日本でもまた会えたらいいですね。」と、いつものように笑顔で優しく話されました。

大使夫人からも子ども達にすてきなお話がありました。それは「笑顔」についてです。「初めて会う人とでもすぐに友達になる1番良い方法は、相手に笑顔を見せること」というもので、ご自分の経験をもとにされた大使夫人ならで



「勲章」を見せてもらいました



大使ご夫妻と和やかな一時



大使からの最後のお話



みんなで北爪大使ご夫妻と記念撮影

校長室便り

(文責)

ドーハ
日本人学校校長
酢谷昌義

発表資料を仕上げる2年生

大きな声で元気よく!

明日は「夏休み研究・体験発表会」です。先週お知らせしたように、子ども達は明日の発表に向けて一生懸命準備をしてきました。今回が人前での初めての発表という子どももいると思います。もちろん緊張はするでしょうが、堂々と自分の思いを発表してほしいと思います。

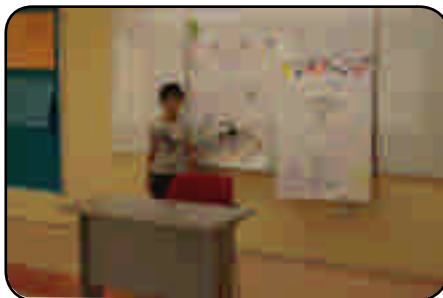
発表会というといつも考えることがあります。それはまず「大きな声で元気よく」ということです。大きな声が出せるということは、とても大切なことだと私は考えています。聞く人に伝わらなければ発表にはなりませんから、その第1条件として声の大きさがあげられます。声の大きさだけにとらわれた指導によって、場違いな大声を出してしまうことが時々見られます。しかしそういう場合は声の大きさを押さえていけばいいわけですから、その後の指導はとても簡単です。反対に大きな声が出せないという場合は、指導に大変時間がかかります。



1年生の発表練習の様子

もちろん性格的なものも関わってきますから一概に決めつけることはできませんが、声を出させる指導の方が難しく時間がかかるのは事実です。

改まった場でその場に合った行動がとれるというのは、社会性の基礎でもあると言えます。集団で生活する私達にとって、その場に合った声の大きさを話したり、その場の雰囲気や敏感に感じ取って行動できるようにすることは非



友達に聞いてもらっている3年生

常に重要なことです。日本人は周りを気にし過ぎるとよく言われますが、あまりに気にしなくなってきておかしな状況が生まれているのではないかとこの気もしています。

発表会というのは、そういう社会性の基礎となる力を鍛える場面でもあると考えています。この夏休みに自分が研究・体験したことを、誰もが大きな声で元気よく自分らしく発表してほしいと思います。



自分で工夫して練習する4年生

スクールバス配車時刻の遅延について

今週に入り、スクールバスの学校到着にずいぶん時間がかかるようになってきました。ルートによっても違いがあるのですが、今日は3台全ての学校到着が8時10分を過ぎていました。

先週は8時までに到着するバスもありましたし、遅くても8時15分には着いていました。しかし昨日今日と、最後のバスは8時25分に到着しています。

その関係で毎朝配車予定時刻に大きな遅れが出て、大変ご迷惑をおかけしております。

4台目のバスについてですが、大使館のご協力も得て現在手続き中であり、間もなく納車されるのではないかと思います。納車され次第、できるだけ早く4台体制に切り替えたいと思います。それまでご迷惑をおかけいたしますが、ご理解ご協力よろしくお願いたします。

校長室便り

(文責)

ドーハ
日本人学校校長
酢谷昌義

廊下に掲示された発表資料

素晴らしい発表会!

貴重な夏休みの体験や研究をまとめた発表会を、子ども達一人一人の頑張りで立派に終えることができました。どの子の発表からも、それぞれに努力してきたことが大変良く伝わってきました。小学部1年生から中学部3年生までの、31人全員の個性が輝いた発表会になったのではないかと思います。

小学部は低・中・高学年に別れ、中学部と合わせ5時間に及ぶ発表会になりましたが、私自身はとても楽しくまた興味深く聞くことができ、終わってみればあっという間の5時間でした。発表内容はもちろんですが、子ども達の思いや感想に触れるたびに、新しい発見がありとても参考になりました。

低学年は1年生の緊張感がそのまま伝わってくるような感じを受けましたが、その緊

張の中でよく頑張っていました。2年生になると落ち着いた発表態度になるとともに、難しい言葉も使われるようになり1年間ですいぶん成長するものだと感じました。

3・4年生になると、聞く人を意識した発表ができるようになり、資料にも工夫が見られるようになりました。言葉の使い方についても事実と感想の違いが使い分けてあったり、聞いたことや教わったことは伝聞の形で伝えたりと表現方法も吟味されていたように思いました。

5・6年生は聞く人を意識した発表になっていたのは当然ですが、聞かせる工夫というものが出ていたように感じました。そして、まとめや感想がしっかりとしていたのがとても印象的でした。

中学部は全員がパソコンのパワーポイントを利用した発

表でした。テーマも各ページの作り方にも違いがあり、それぞれが「伝えたいこと」を伝えるための工夫が凝らされていたのは、さすがに中学部だと感じました。

中学部の発表の後で話したのですが、私は「疑問」を持つことの大切さを改めて感じました。疑問を持つことが「自主的な学習の出発点」になるということ、子ども達の発表を聞きながら考えていました。子ども達が持つみずみずしい感覚を大切にしていくことは、やはり重要なことだと思います。いろいろな国や地域を旅行することも、そういう感覚を刺激して、比較して考えることができる力なども養っていきけるのではないかと思います。

保護者の皆様には、長時間にわたってお聞きいただき本当にありがとうございました。



たくさんの方に聞いてもらい発表に力が入りました



発表者はもちろん聞く人も真剣に聞いてくれました